
ある男の日記

結局また書いてしまった作者R

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある男の日記

【Nコード】

N0105X

【作者名】

結局また書いてしまった作者R

【あらすじ】

唐突だが、日記を書こうと思う。理由は特にない。ただ、なんとなく書きたくなった。ひとつ忠告しておく。これはあくまで俺個人の日記だからそんなに面白くはない。それでもいいというなら、どうぞ読んでくれ。あ、もうひとつ言い忘れた。この作品はフィクションで、作者自身の日記ではないから。それではどうぞ。

ある男の日記

○月？日 晴れ

さて、記念すべき最初の日記の書き始めだ。と、いつでも特に書くことがない。困った。最近は周りの奴らも妙におとなしいから、特に書くようなネタがない。しかたない、ここは自己紹介でも書いておくか。

俺の名前は蒼島そうじま 竜輝りゅうき

職業は何でも屋、といっても別に何でもかんでもやるわけではないけどな。基本的に物を探したり、人を探したり、他の仕事を手伝うなどのことをしたりする。別に人を殺すような仕事は引き受けるつもりはないからそこそこよろしく。

ちなみに名前でわかるが性別は男だ

年齢は・・・・・・・・・・・・・・・・いくつだっけ？

というのは冗談で、本当は20京8931兆4590億2385万1298歳だ。

・・・・・・・・・・・・・・・・うん、冗談じゃなくマジで。

まあ、信じようが信じまいようが別にかまわないからいいけどな。

なんでそんなに歳をとっていられているのかについては、説明してもいいが、正直長くなるから大まかな部分だけ話す。

ぶっちゃけ言うと、俺がすんでいる世界は地球とか宇宙とかがない異世界だったんだ！

・・・・・・・・・・・・・・・・な、なんだってーーーー！！

・・・・・・・・・・・・・・・・うん、2度目になるけど嘘じやなくマジで。

まあ、ここまで来ると信じるのがバカバカしく思うよな？でもな、本当のことなんだぜ。別に、ふざけているつもりはない。

とにかく、そういうことだから、理解してくれ。他にもたくさん疑問に思うことはあるかもしれないが、全部書いてしまうと、とてもじゃないが、大百科事典もびっくりな量になってしまうから省く。

そもそも、日記でそんなに書きたくもないしな。

つと、話がずれ始めたな。確か、年齢までは言ったんだよな。なんかさっきから口調が変わってきている気がする。というか、書いているのに、「話」とか「口調」とか書くのは正直どうだろうか。別

にしゃべっているわけではないのにな。

さて、自己紹介の続きに戻るとするか

特技は、長時間白目にすることができる。どれくらいといったら、1万年ぐらい。

……うん、長時間とは言わないなこれ。というか、普通に考えて気持ち悪い特技だな。一応、他にもあるが、それだと他人とかぶってしまうしな。というか、いったい何をどうやったらあんなことになるんだか。光速より速く動くことができるとか、空間に対して軽く殴るような動作をしただけで、世界が消滅しかけるとか、しかも、それがうまれて半年ぐらいの子供ができたとか。もう正直言つて、とんでもない世界だなここは。まあ、そんなことを言う俺もその一人なんだけどな。

おっと、また脱線してしまった。こんなことを続けてはいつになったら終わるかわからないな。さっさと続きを書いてしまつか。

好きなことは、のんびりしたりすること
嫌いなことは、めんどいことに巻き込まれること。

家族は両親と妹と弟がそれぞれ一人

趣味は、地球でいうシュミレーションゲームをやること

つと、こんなところか。

しかし、改めて見ると、本当に面白くないな。まあ、あたりまえだと思うが。正直言つて、自分はこういったことがあまり好きでは

ない。では、なぜ書くことになったのかというと、本当に特にな
あるとすれば、なんかやってみようかなと思ったからかな。

さてと、今日はここまでにしておくか。続きは明日に書くでしょう。

できるだけ、この日記が続けばいいと思っている。

日記2日目

○月 日 晴れ

さて、2日目に入ったわけだが、今重大なことが起きている。

それは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

少し書くのが飽きてきた。

うん、言いたいことはな

んとなくわかる。

いくらなんでも早すぎるだろ！っと思っただやつもいる、というよりほとんどのやつがそう思っているだろう。実際に俺も今そう思っている。いくらなんでも早すぎると。まだ2日しか書いていないのに飽きてしまうのは。

だけど、これはしょうがないと思っている。だって、最近面白いことがないんだから。

いや、真面目な話本当に特にない日々が続いている。そのせいで、書くようなネタがない。自分で作るという手もあるが、そんなことすれば、ただ独り言を書いているだけの日記になってしまう。そういうものはあまり好きではない。というか、それって日記になるのか？という疑問しかない。まあ、なんだっていいが。

でも、だからといって、有ること無いことを書くのもあまり好きではない。はつきりいって、実際に起こったことだけを書きたい。というか、それが日記だと思うんだが？と書いているとき思った。

しかし、困った。このままでは、書く内容がほとんどない。できるだけ、少し長めの文章の日記にしたいというのが本音だ。しようがない、前回の日記のときに書いたこの世界について少し説明でもしておこう。

.....あれ？これ
って、立派な独り言じゃね？

・・・・・・まあ、そんなことは気にしないとするか。さて、この世界のことについて大雑把に説明しておこう。

まず最初に、この世界がどういった世界かについてだ。といっても、説明するのも難しいというより、どうやっても長くなってしまうから、特徴だけを書くとする。

（次の文は別に飛ばしても構いません）

ひとつめは、この世界には前回も書いてあったように宇宙などが無い。では、どうなっているのかと聞かれると、ぶっちゃけた話そちらの世界では神様と言っているものが世界を維持している。まあ、これだけ聞かれてもよくわからないだろう。もっとわかりやすく言えば、昼や夜、温度、気候などを神様がやっているとさえはわかるだろう。話は変わるが、そっちの世界で、今では神を信じているものは少ないが昔は多かったのを知っているだろう。なぜ、多かったのかの理由についても知っている者もいるはいるかもしれないが知らない者もいるかもしれないので説明しておく。

今では科学などで多くのことが判明している。たとえば、雷がどうして起きるのか、物はどうして下に落ちていくのか、地震はなぜ起きるのかなど。しかし、それらのことはわかったのは最近——といっても100年単位だが——になってわかったことであり、歴史を長い目で見ると、それらが証明されている期間はほんのわずかである。昔の人は、それらのことは神様がおこしたものだと思っていた。まあ、中には龍などの別のものがおこしたものだと思う者もあったが、それらのことが現実になったものだと思えばわかるだろう。

といっても、本当に神様というよりは「みたいなもの」といったほうが正しいんだけどな。はっきりいって、神様という言葉はただの

呼び名みたいな感じだし、なにより、こちらの世界では神様よりもすごいやつらがごろごろいるしな。俺もその一人だけだな。

ちなみに、昼と夜の時間帯だが、何も急に夜になったりするわけではない。そちらと同じように徐々になつていくものだと言えればいい。なんでそうなっているかと言えば、こちらがびっくりしないよう配慮した結果なんだと。まあ、確かにいきなり夜になったりすればびっくりするだろうな。俺でもさすがにびっくりする。でも、正直な感想、そんなこともすぐ慣れてしまう気がするけどな。

って、なんだか少し長くなってしまった気がするな。これ以上長くならないうちに次いつてみるか。

ふたつめは、この世界はひとつしか存在しない。

これだけいってもわからないと思うが、わかりやすく言えば並行世界がないと言えいいだろう。信じられないかもしれないが事実なのでしようがないと思う。詳しく書くとあまりにも長くなってしまうから省かせてもらう。本音を言えば書くのがめんどい。

みつめは、この世界ができたのは今から9485京年前である。

と、まあだいだいのことは説明できたはずだと思う。他にも色々あるがあまりにも書くと（ry

まあ、期を見ていつか説明するでしょう。あ、そうそう、たぶん文章を見てそっちの世界など書かれているが一応説明しておこう。

そっちの世界とは、地球に人類が存在している世界を指して言っている。もっと正確に言えば21世紀の地球と言えは分るだろう。な

んでそんなことを書いたかと言えばなんとなく。ただひとりで説明しているようだとしつまらないから雰囲気だけでも書いてみた。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・いま思ったんだが、
これってやっぱり立派な独り言だよな。

さて、今日はここまでにしておこつ。なんか短くも感じるが、少し
詰めて描いたからしょうがないか。
それではまた明日。

P・S お前の友人より

この日記を読んでみたけどさ、あまり面白くないね。今日の日記だって後半説明文になっているし。誰もそんなこと求めていないから。それと、やっぱりじゃなくて間違いなく独り言だから（笑）

死にたい
・
・
・
・
・
・
・

よ、よりもよってあいつに日記を見られた・・・

つか、なんでこの日記のこと知ってたよ！まだ書いてから2日しか経ってないぞ！それにこの日記のこと誰にも言っていないし！というか、何勝手に俺の日記に書いてんだよ！しかも、辛口なコメントだし！いや、そりゃ褒められるところはないけどよ。だからといって日記に書かなくてもいいだろうが！地味に腹立つし！

一番ムカつくのはP・Sお前の友人よりってとこだよ！俺のことを詳しく知らない奴にはわからねえけど、俺には誰の事だかわかるんだよ！名前伏せる意味ねえだろ！それと、その言い方だと俺が友人

少なえと思われるだろうが！つーか、P・Sってそういう風に使うもんじゃねーし！それに、なんだよ（笑）って！何気にム力つくんだけど！

ぜえはあ、ぜえはあ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

と、こんな感じで今日日記を見た直後に言った。本当はもっと多かった気がするけど、だいたいのところだけを書いてみた。当然このあと本人のところに行った。

そしたら、あいつなんて言ったと思う？

「それはよかったねwwww」

って言ったんだぞ！何がよかったんだよ！何一つよくねーよ！しかも、笑いながら言うんじゃねーよ！また腹が立ったじゃねえか！このままじゃ俺の精神がストレスで0になるだろうーが！

と、こんなことを言った後にあいつは素直に「ごめん」と謝ってきた。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・畜生

だからあいつは昔っから苦手なんだ。自覚はあるのにかまわずやるし、俺が怒ると素直に謝ってくるし。しかも、嘘偽りが無いからなおさら厄介だ。そのせいで一気に怒りが収まってしまふし。

はあ・・・・・・・・・・・・・・・・

なんであいつ悪いことをしてる自覚はあるのにやってくるのかね？
やっぱあれかな？どうしてもやりたくなってしまうのか？だとしたらこちらとして迷惑きまわりない。とは言っても、本人も素直に謝ってくるから何とも言えないんだよなあ・・・・・・・・

一応もう2度とするなと言っておいたんだけど、意味ないよな絶対。

まあ、そんなことはもういいか。

さて、気なっている奴もいるかもしれないので、ここであいつのことについて紹介しよう

あいつの名前は赤夜せきや 紅花こうか

名前でもわかと思うが、性別は女だ

・・・・・・・・・・・・・・・・え？リア充？なんのことかな？

あいつの家の赤夜家はこの世界では結構有名だ。何せ現当主が異常だからな。

性別が女にも関わらず女と交わっても子供を作ることができるんだから。正直俺もおかしいと思う。しかし、残念かな現実なんだよ。

まあ、そもそもこの世界はいろいろおかしいから今さら驚くこともないんだけどな。正直慣れたし。ていうか、なんで俺この世界出身なのにあんまり慣れなかったんだろう？

まあ、理由はなんとなくわかるけどな。俺の中の常識というものが少し周りと違っただけだからと思う。

ちなみに現当主の名前は赤夜せきよ 隣花りんか

紅花にとっては義姉にあたる。

さて、話を戻そう。俺と紅花の関係だが、よくある幼馴染というやつだ。といっても、歳は2000ほど離れているんだけどな。

それって幼馴染というのか？と思った奴もいるだろう。しかし、先ほども言ったがこの世界はいろいろおかしいので安心してくれ。

紅花は赤夜家の確か末っ子だったと思う。上に姉が3人いたはずだから間違いはないはずだ。

特徴といえば、赤髪といえいいだろう。といっても赤夜家の血をひくものはだいたい赤髪なだけだな。

性格はよくいえば明るく、元気で、活発な子。悪くいえばトラブルメーカー。

というかあいつの場合こっちのほうが合っていると思う。主に俺のストレスの原因となっているのがあいつだからだ。

いったいどんなことがあったといえきりがない。ひとつ言えることは、俺にとっていいことはなかったことだろう。

それと、あいつはなぜか幼馴染にも関わらず俺のことを他人に紹介する時は友人と言っている。――（結局は幼馴染ということをはらすんだけどな）俺のことを幼馴染と認めているのになぜだろうか？

まあ、言えることといえばこんなところだろう。さて、きりのいいと
こだし今日はここまでにしておくか。

正直日記と呼べるものになっているかわからないが、別に何だって
いいか。

明日はいいことがあればいいな思っている。

P
・
S

最近仕事がない気がする。このままだとまずいなあ。副業でもやってみようかな。それと、なんで紅花の奴がこの日記のことを知っていたのか聞くの忘れた。明日でも聞いてみよう。

日記4日目

○月 日 晴れ

今日は特に何もありませんでした。

ら、信じないように。
.....嘘だか

いや、うん。今日は珍しく仕事が入ったので、夢かと思ってついと

っさにあんなことを言ってしまった。

いや、それにしても、久しぶりに仕事が入るとは思わなかった。最近
は本当に何にもなかったからどうしようかと思っていたんだがな。

・ ・ ・ ・ ・ しかし、運命とは残酷なのか。その入
 ってきた仕事も俺にとってはありがたいむしろ最悪のものだっ
 た ・ ・ ・ ・ ・

仕事が入ってきたときは嬉しかったが、その気持ちが長く続かなかったのには理由がある。

そう、問題があったのだ。主に内容に。

その仕事の内容のことをわかりやすく言つと、

『今日だけの間教師をやってくれ』

……いやさ、確かに制限はあるけど何でもやる
とは言ったけどさ、こればかりは正直予想できなかった。

で、何が問題かと言つと、この『教師をやる』というところしかない。

なぜそこが問題なのか？と思つたやつもいるだろう。この際だから
はっきり言おう。

実は俺……
……

子供が嫌いなんだ・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

というのは流石に嘘だ。

本当はその環境が問題だ。なんていったてその学校は女子校だからだ。

というか学校なんてあったの？と思ったやつもいるだろう。実は言うところの世界にも学校はある。ただ、少し変でもあるがな。

具体的にいうと、生徒全員が天才を乗り越して異常と呼べるほどの知能と力を持っている。（というかそんなのしかない）

ここでひとつ言っておくが、この世界の異常はほかの世界の異常とは遙かに違う。わかりやすく言えば、地球上での異常者が1とするとこの世界での異常者は最低でも10億以上だ。

………うん、どこの超人しかない世界だよ！と思ったやつは正しいと思う。実際、異常と言っているけ

ど、この世界では平凡でしかないー（みんな持っているから）。

この世界において異常と呼べるものはそんなにいない。というか、いたら困る。主に俺の精神的に。

まあ、でも安心してくれ。今まで言っただけだからわからなかったと思うが、この世界の人間の繁殖力は結構低い。その証拠に、今の人口は昔からいたものも合わせても10万しかない。

って、どこに安心する要素があるんだか。結局は他の世界では異常と呼ばれるほどの知能と力を10万人も持っていることになるんじゃないか。

だけど、悲しいかな。これ現実なんだぜ……………

っと、話がずれた。というか、最近話がずれることが多いな。次からは本題をさっさとやってしまふことにするか。

……………それはそれで文が少なくなるような気もするが。

さて、本題に戻ろう。

そう、女子校だ。もう一度言っておく、女子校だ。頭が春かもしれないが俺にとっては嬉しくない。

なんて言っただって、周りが女子しかないのだ。どこに嬉しがる要素があるというのだ。

いや、考えてみたらこの世界において嬉しがる奴はあんま、ということはない気がする。まあ、だいたいのやつはもう女性を関わることに慣れている、もしくは結婚していたりするから嬉しがるやつもないか。

ちなみにひとつ言っておくが、学校の数はそんなに多くない。そして、だいたいの学校においての生徒の割合は、人が4、それ以外が6だ。

.....いろいろな突っ込みたいことがあるかもしれないが、いずれは説明するからこの場では一応納得しておいてくれ。

でも、別に女子が苦手というわけでもない。では、なにが問題なのか。

ここで前回紹介した俺の一応友人兼幼馴染の紅花を思い出してほし

い。

実はあの時言ってなかったが、紅花はなぜか、というかなぜだろうか、俺が女性と話すといわゆるヤンデレになる。

ここでポイントなのはデレはあるがヤンの部分が強調されているところだ。

ほんとなぜだろうか、俺が他の女性と話すところからもなくいきなりやってきて襲ってくる―（ただし、紅花と親しい人と話しているときはヤンデレ化しない）。しかも、殺す気で。俺としてはたまったもんじゃない。

まあ、なんでそんなことをしてくるのか俺にはだいたいわかる。理由は簡単だ。あいつが俺のことを好きだからだ。なぜそんなことがわかるかって？だってお前、『私が一人前になったら、一緒に暮らそうね』なんて言われればいやでもわかるだろ？まあ、俺はまだあいつのことをまだ一人前とは認めていないけどな―（だからといって殺す気で来るのは勘弁してほしい）。

さて、ここまで読んできた者ならわかるだろう。俺が女子と話していたら当然あいつはどこからともなくやってきた。最初は仕事上の都合上仕方がないとなんとか説明して（ほんとにしんどかった）追い払ったが、その後も続けてやってきたので仕方がなく気絶させたんだが、あいつはいつたいたいどうやったのか、一気に正気を取り戻し

て襲いかかってきた。

・・・・・・もう、ここまでくると見事だと思う。というか、完全に気を失っていたのにどうやって正気を取り戻すことができたんだ。

そんなことが仕事が終わるまで続いたのでめっちゃくっちゃ疲れた。

別にこんな程度では体力は尽きることはないがそれでも疲れるものは疲れる。

だったら、仕事を引き受けなければよかったんじゃないか？と思う奴もいるだろう。しかし、最初にも言ったとおり、最近仕事がなかったのでそろそろまずかったのだ――（主に生活費が）。

そんなこんなでさんざんな1日になってしまった。

次からはなるべく平和的な仕事がほしい。

おっと、こんな時間か。まあ、そろそろきりがいいころだと思っていたしここまですておくか。

あ、そうそう。紅花に好意を持ったやつ、悪いことは言わないから諦める。じゃねえと、俺が黙っていられるかわからねえから。なんだかんだいって、俺もあいつのことは好きだし。というか、俺もヤンデレみたいなもんだな。いや、前回みたいなこともあるからツンデレなのか？まあ、どっちでもいいけどな。

日記5日目

○月 ? 日 曇り

さて、今回は珍しく今まで疑問に思われてきたことを説明しようかなと思っていただんだが、ここでふと思った。

説明すんのめんどいから、無理やり納得してもらったほうがよくな？

だつてさ、説明すると本当に長くなってしまうし、というか、誰もそんなこと求めていない気がするんだよな。

……別に説明するのがめんどつになつたからいつているわけではない。

でも、まあなにも説明しないのは流石に後味悪いので、大まかなとこだけ説明しておく。

べ、別に説明しないと困ってしまうことを心配しているわけではないからな！

・・・・・・・・・・自分で言うのもなんだが、正直こんなこというのは吐き気がする。言わなきゃよかったと今後悔した。

さて、気を取り直してさっさと説明しておくか。

まずこの世界の人間についてだ。

主な特徴をあげると、

- ・前回言った通りに全員が力を持っている。

- ・精神がかなり発達している。そのため、中には狂気にまみれた人間がいても別に不思議ではない。

- ・ほとんどの者が1万歳を超えている。

- ・寿命がかなり長い。どれくらいかははっきりとはわからないが、最低でも無量大数一（10の68乗）はあるといわれている。

- ・繁殖機能はかなり低い。どのくらい低いかというと、1000万年で子供が1人できるかどうか。

- ・最近では何らかしらの力を使って、子供をたくさん作った者もいる。――（結果、現在での人口が10万になったのである）

- ・治癒能力が半端なく高い。例をあげると、体が消されても何事も

なかったかのように復活する。

・食事をとらなかったり、睡眠をとらなかったりしても、1億年ぐらいは平気。――（ただ、途中で飽きてくるが）

・防御力も高い。それと、呼吸をしなくても平気。――（外見は同じだが、体のつくりが他の世界の人間と違う。）

などなど、まだこのほかにもたくさんあるほど、この世界の人間は特徴が多い。

続いてはほかの種族について説明しよう。

この世界では妖怪や魔物などといったものもいる。ただ、この世界ではもちろん他の世界とは違っており、別に人間を敵対視はしていない。

まあ、だからといってまったく襲わないわけではないが。――（言ってもこちらにとってしまえばちょうどいい殺し合い、もとい喧嘩ができる相手なんだがな）

他にも、妖精や獣人などもいる。

よし、説明終了！

え？短くない？大丈夫だ、そんなことはない。これでも一応この世界で生きているものについて説明できたはずだ。まあ、確かに短い気もするが、そんなのいちいち気にしていったらきりがない。こちらだっているいろ大変だからな。

さて、どうしようか。今回はほとんど説明文みたくなくなってしまって、日記の面影がない。ていうか、前回は似たような気もする。

まあ、別にいいか。それにしても、最近は本当に周りがおとなしいな。まるで嵐の前みたいな静けさだ。

まあ、どうせすぐに騒がしくなるだろうしな。さて、今日は短いかもしれないがここまでにしておくか。明日できればいいことがあるばいいと思う。

P・S

今までの行動を見て、思ったこと。やっぱり俺って、ツンデレじゃない？なんだかんだ言っただけで、あいつに対して素直になることはできないし。あいつが素直にならないこともあるが、どちらかと言うと俺のほうが素直になってない気がするし。まだ、はっきりと好きだということもどちらとも言っていないし。なんだかんだ言っただけで、両方ともツンデレの要素があるんじゃないか？

日記6日目

○月 日 晴れ

ある意味面倒なことになった。

最近やけに静かだなと思っていたが、まさかこのためだったとは。そして、こうなるとはだれが予想できたのだろうか。

気づいたのは今日、紅花が家に来てこんなことを言ってきたからだ。

『そつえば、もうそろそろ大会が始まるね。竜輝もちろん参加するよね?』

このことを聞いたとき俺には何のことなのかわからなかった。

だが、俺にとってありがたくないことだけはすぐに直感で理解できた。やはり、こういう嫌なことに関しては俺の直感は働くな。一（前回は働いたが、あの時はやらなくてはいけなかった状況だったしな）

で、思った通り紅花に詳しいことを聞いてみると俺にとってはありがたくないものだと分かった。

どうやら3日後に武道大会みたいなものが開かれるそうだ。今のところ確認されている参加者は14万人。人間が6万、妖怪・悪魔・魔獣といった闇に関連する者は4万、妖精や獣人などが3万、それ以外の者が1万だそうだ。

開かれた理由としては、大勢の者が『1度にたくさんの者と戦いたい』と言ったからである。まあ、わからない話でもない。実際この世界に住む者は全員が闘争本能を持っている。なかには、殺し合いを楽しむ者もいる。昔、皆がその闘争本能の赴くままに戦争を始めたこともあるのは言うまでもない。

しかし、そんなことが何回も起きたせいか、流石に自重する者も出てきた。それでも、やめようとしないうちで決まりを作った。決まりは何度か内容が変わったりもしたが、そのおかげで皆は昔のようなことはやめた。そして、いつもではないが、たまに戦っていたりする姿を見るようになった。

当然俺もたまに戦っていたりする。しかし、俺はどちらかというとそんなに闘争本能があるわけではない。というか、めんどい。

そう、皆にとつては嬉しいことでも俺にとつては嬉しくないのだ。だから、俺は『大会に参加するつもりはない』と紅花に言おうとしたが、紅花が次に言った言葉で意味がなくなった。

『そうそう、竜輝を大会に参加させておいたから。そこんところよくしゅね。』

この時、我が耳を疑ったのは言うまでもないだろう。だから、もう1度聞き直そうとしたが、それよりも先に紅花が答えた。

『だって、竜輝のことだもの。やるのがめんどいと言って大会に参加するつもりはなかったんでしょ？だから、私が勝手にやっておいたんだよ。そりゃあ、竜輝に大会のことを知らせないようにしておいて、あげくに何の相談もなしに参加させておいたのは悪いとは思っているよ。でも、それじゃあ私が面白くないじゃん？そんなことを私が許すことができないことは竜輝がよくわかっているよね？』

俺はこの時、『ああ、結局そんなことだなと思ってたよ』と思った。まあ、確かに紅花のことだ。こんなことをするのはだいたい予想できた。というか、誰も大会のことを俺に教えなかったのはお前のせいかと思っていた。

しかし、だからと言ってこのまま俺だけが面白くはないのは嫌だと思ったので、ついこんなことを言ってしまった。

『じゃあ、もし俺が最後まで残ることができたら、そんな時は俺の嫁になってもらう』

この時、紅花が恥ずかしさのあまり殴ってきたのは言つまでもない。結局防がれてしまったがな。

その後紅花が、

『い、いいわよ！そこまで言つんなら、私だつて言つことを聞いてやってもいいんだからね！』

と言い、その場をすぐに去つて行つた。

残された俺は、さっき言つてしまった言葉に後悔もしていたが、むしろうれしさが大きかった。なんせ、最後まで残ることができれば紅花と一緒にいることができるからな。

しかし、それは同時にやっぱり大会に出なければいけなかったのである意味めんどろだった。

でも、だからと言って出ないわけにもいかないし、何より紅花と約束してしまったしな。

そして、久しぶりに鍛練とかしておいて大会に備えることにした。

といつても、3日間でどこまでできるかわからないけどな。まあ、今日久しぶりに鍛練してみたがそんなに劣っていなかったから大丈夫だろう。あと、できるだけのことはしておく。

そんなこんなで今日は面倒な日にもなってしまった。別に望んだわけでもないのにな。いや、ある意味望んだこともあったからそうも嫌ではないな。

さて、今日はここまでにしておくか。あんなことを言ってしまったんだ、何が何でも最後まで残らないとな。

P
·
S

そっついや思っつたんだが、なんで大会の形式がバトルロワイヤル制なんだろうな？まあなんだっていいが。

日記7日目

○月 日 晴れ

この日記を書くのは少し久しぶりな感じがする。

まあ、当たり前と言えば当たり前か。

大会が終わった後もいろいろあったしな。

え？結果はどうなったんだって？

・・・・・・・・・・・・・・・・えーと、その、なんといつていいのか。まあ確かに最後まで残ることはできたと言えばできたんだが、最後の最後にイレギュラーが起きそのままなぜか戦闘に移行して、負けてしまった。

いや、確かに公式としては最後まで残ったことになるんだけど、結果としては負けてしまっているの、正直なんて言ったらいいのかよくわからない状況になってしまった。

あくまで『最後まで残ったら』が条件だったことがこんなことを引き起こしたともいえる。でも、俺は悪くはないと思う。だって、最

後のほうでイレギュラーが発生するとはだれが思う？

いや、確かに発生する可能性もあるだろうとは思ってはいた。それで、もしイレギュラーが起きても対処できるように準備はしていた。

だけど、悲しいかな。そんな俺の気持ちを知ってなのかはわからないが、そのイレギュラーの正体が赤夜燐花だった。

で、当然燐花に勝てることもなく、フルボッコにされて負けた。

結局、約束した内容が内容だったので、とりあえず保留にしておくことになった。

しかし、俺としてはかなり残念だ。

約束がなくなっただけではないが、それでも約束を果たすことができなかったのが恥ずかしい。

今のところ紅花との関係に問題は起きてはいないが、それでも不安がいっぱいだ。

もし、嫌われたりしたらどうしようか、と最近思ってきた。

というか、いつの間に俺は紅花のことを考えたんだろうか？最初のほうではただのトラブルメーカーとしか見ていなかったのにな。

まあ、今もしょっちゅう訪れては面倒事を起こしてくるんだけどな。

このまえ紅花に言われて気づいたんだが、日記と言ってもそんなに長くなくてもいいんじゃないかと思った。確かに、日記なんだからなにも長くしなくてもいいかもしれないな。だから、今日はここまですておこうかと思う。結構短いかもしれないかもしれないな。

日記8日目（前書き）

最近冷えてきてなと思っていたら、いつのまにか風を引いてしまった。やはり、体調管理はしっかりしないといけないなと改めて痛感しました。

日記8日目

月○日 曇り

こうやって日記を書くのも結構久しぶりだな。

いろいろあったせいで、前回の日記を書いた日から3か月ぐらいたってしまった。

というのは建前で、本当は日記のことを忘れていただけなんだがな。

まあ、そんなことはどうでもいいか。

さて、いきなり飛んでしまったものだから前回から今日にいたるまでの3か月間に起きたことを書こうと思う。

と言っても、そんなにあるわけではないがな。

あったと言えば、俺と紅花の交際が正式に認められたことだけだ。あとは、仕事をやったり、1日中ごろごろしたりと、特にこれといったことではない。

ちなみに、紅花との交際は昔からすでに認められていたらしい。というか、全員俺と紅花の関係を認めていたらしい。

まあ、俺としても下手にごたが起きるよりはすぐに承諾されるほうがいいけど。

え？全員が紅花との関係を知っていたことに驚きはしないのかつて？

確かに、少しは驚いたりもしたが、そんなにたいしたことでもないし、それに、普段から俺の家や仕事場に来たり、時には泊まっていたこともかなりあったから周りが知っていてもおかしくはないだろう。

と、まあこんなところだな。本当にこれといったことはなかったけどな。

それにしても、まさか紅花とこんな感じで結ばれるとは思わなかったな。なんというかあっけなさすぎるというのか、あっさりすぎるといったほうがいいのか困るな。まあ、紅花と紅花と一緒にいられるならなんだっていいけどな。

さて、そんな紅花なんだが最近少し、というかかなり様子がおかしい。

何がどうおかしいかと言うと、最近やけにおとなしいのだ。

そう、おとなしいのだ。これははっきり言っておかしい。俺は今まで紅花のことは見てきたが今回のようなことは見たことがない。というか、一回も見たことがない。

知つてのとおりだが、紅花は良く言えば活発、悪く言えばトラブルメーカーと言われるほどおとなしさとはかけ離れている。

だから、本来であればありえない光景なのだ。

当然、こうなつたのには何か理由があるのだと思い、紅花に話しかけたりもしたのだが、帰ってきた答えは『何でもない』の一言だけ。

流石にこれではわからなかったので、燐花に聞いたりしたのだが、『別に気にすることはないと思うよ。』と言われただけだった。その後も、他の人にも聞いたりしたが帰ってきた答えは皆同じだった。

でも、実は言うと、はっきりとしたものではないが紅花がおとなしくなつた理由はなんとなくわかっている。

それは、ただ単にデレ期に入っただけだと思う。根拠は、最近甘え

たりする行為が頻繁に起きていたからだ。しかし、これが原因なのかどうかはわからないので、一応そんなところだろうと思ってはいる。

まあ、そのうち元に戻るだろう。あの紅花がこのままおとなしいままではいるはずがないしな。

さてと、書くネタも尽きたことだし、今日はここまでにしておこう。次に書くときがいつになるかわからないがそう遠くならないうちにしておこうかと思う。

日記9日目

月 日 晴れ

今日は特にこれといったことがなかった。あつたとすれば、以前紅花の様子は変わらないことだけだろう。

月 日 曇り

今日は仕事が入ってきた。内容は3か月ほど前にやった教師の仕事だった。またやるのかと愚痴りたくなったが、仕事は仕事なので仕方がなくやることにした。特に問題はなく、無事に仕事を終えることができた。ただ、今日も紅花はおとなしかった。俺が他の女性と話していても全く気にしていなかった。紅花は依然と大丈夫だと言っているが、本当に大丈夫なのか不安だ。

月 ? 日 雨

今日も仕事が入る。いつものように仕事を終わらせ、寝た。そして、今日も紅花の様子は変わらない。

月〇〇日 曇り

今日も仕事が入り、その日のうちに終わらせ、寝た。紅花の様子も変わる気配がない。

月 日 雨

仕事が入る、もしくは入らない、そして紅花の様子が変わらないという日々が続いている。一言で言ってしまうば、ループ現象が続いている。流石にこの現状は結構きつい。早く何とかしなければならなと思っています。

月 日 晴れ

今日は紅花からいきなりとんでもないことを言われた。

『実は言っと、私のお腹の中に竜輝との子供がいるんだ。』

この時、俺は自分の耳を疑った。しかし、嘘ではないことだけはすぐにわかった。なぜなら、この時の紅花はいつものような明るく、無邪気な表情をしていたからだ。

そして、最近紅花がおとなしかった理由もわかった。どうやら俺をびっくりさせたかったらしい。

子供ができたことを悟らせないように今までおとなしくしていたが、このまま隠し通すのはさすがに無理だと判断した、というよりは早くしゃべりたくて我慢できなかったので今日すべてを話すことにしたと、紅花はそう言ってきた。

流石にこれには俺も笑うことしかできなかった。紅花は笑われたことに対して、怒ってきたがその時の俺の中には呆れと安心、なにやり嬉しさの感情が大きかった。

そして、いつ子供ができたのかと聞くと、3か月ほど前だといった。本当ならもう少し黙っていたかったが、上でも言った通り隠し通すのが無理なのと早く教えたかったので、今日いうことにしたらしい。

この世界の人間は前にも言ったと思うが、出産率がかなり低い。ただ、その代り出産までの間が短く、半年もあれば出産可能だ。その短い間に生命活動に必要な機能を持つことができるから、この世界の人間はすごいと思う。と言っても、ほかの種族も同じようなものだからあまり変わらないけどな。

なので、現在紅花の腹は大きく膨らんでいる。いきなり膨らんだからそっちのほうにも驚いてはいた。何故今まで気づくことができなかったのか疑問に思ったが、すぐにその疑問もなくなった。

どうやら、紅花が燐花に腹が膨らむことを認知されないよう頼んだと言う。でも流石の燐花でも3か月ぐらいが限界だと言ったという。理由としては俺の力によるものもだが、ここではその説明は省くでしょう。

それでも、紅花は俺を驚かせたかったので、それでもいいと言ったらしい。そして、なるべく俺の意識が自分に向かないようにおとなしくしていた、と言った。でも、本当は話しかけたりするのがまだ恥ずかしいというのもあったと、紅花は照れながらもそう言った。

流石にここまでくると、俺でもなんと言ったらいいのかよくわからなかった。ただ、一つ言えたことは、やっぱり紅花は紅花だなと思っただことだろう。

その後は、子供の名前は何にするか、どんなふうに育てていこうかなど、将来のことについて話し合った。

途中紅花と言い合いにもなったが、別に嫌な気持ちになることはなかった。むしろ、嬉しさが大きかった。やはり紅花はこうではなくてはな、と改めて思うことができた1日だったと俺は思う。

それに、最近俺が心配していたことが解決できたので今日はいい1日だったとも思った。

月 日 晴れ

今日は生まれてくる子供の名前は何にするかを決めることができた。

名前は竜花。性別が男でも女でもこの名前にすると紅花は言った。

ちなみに、名前でもわかると思うが俺の『竜』という字と紅花の『花』の2つの字を取ってつけた。

あまりにも安直すぎると思ったが、紅花が嬉しそうに言ったので、深く言わないことにした。

しかし、この名前だと女の子だったら問題ないが男だったら問題なのではと思ったが紅花が（ry

まあ、俺としては子供が早く生まれてほしいと思っている。欲を言ってしまうえば、元気な子が生まれて欲しい。

（ここから先は似たような内容が続く）

月 日 晴れ

今日は嬉しいことがあった。ついに紅花との子供が生まれたのだ。性別は女の子だった。当然名前は竜花にした。

あまりにも嬉しかったので、紅花に叱られるてしまうほど騒いでいた。

いろいろと書きたいが、言葉がなかなか見つからないので、とにかく嬉しかったことだけは間違いない。

ちなみに、名字のほうだが、紅花が俺んとこに何回も来ていたこともあったので、蒼島姓になっている。

今日は本当に嬉しかったことだけは間違いないと俺は思う。

これから先何があるかわからないがせめて幸せな日々を送りたいなと思っっている。

蒼島竜輝の日記

○月？日 晴れ

この日記を書いてからもう一年たつのか。

なんだか早い気がするな。

え？そんなに書いていないだ、って？

いやいや、そんなことはないはずだが。ああ、もしかして前回までの日記のことを言っているのか。

まあ、確かにここまで読んできた者には少ないように感じているが、それはあくまで主な部分のそこだけを記載させているだけで、実際にはもっとたくさんの方が書かれている。

メタ発言になってしまいが、別に作者が書くのはめんどくなっただけではないのでそこそこをよろしく頼む。

で、これから話を進めていくわけだが、最初に言っておくことがある。

実は言うと、今日の方でこの日記を終えることにした。

なぜかと言われると正直言っただけきた。

しよせんなんとなくやってみたくて書き始めたのでそんなに長く続ける気はなかった。

だけど、さすがにすぐ終わらせのはどうだろうと思ったので、最低でも一年ぐらいは書こうとこの日記を書くときに決めていた。

でも、後悔はしていない。むしろこの日記があったからこそこの1年間を得ることができたと思う。

でも、流石に紅花と結婚することになるのは予測できなかったな。本当なら、普段の紅花に対しての思いやちょっとした話とかを書くつもりだったんだがな。

まあ、なんだっていいか。結果としては悪くはないものだし、よしとするか。

さて、ここで今まで書いてきたことを改めて読んできたんだが、正

直言っっているのとグタグタだった気がする。

最初の頃なんかほとんど自己紹介や説明文になっていたからな。まあ、しょうがないか。別にそこまで期待するやつなんていないと思うし。

しかし、これで最後になるのにこれといって書くことが思いつかないな。

あったとしても、あまり大したことでもなさそうな気がするしな。

まあ、とりあえず最後の言葉として書いておくか。

今まで、ありがとな。

ある男の日記

完

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0105x/>

ある男の日記

2011年10月10日10時13分発行